

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 12月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600088		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム向原		
所在地	広島県安芸高田市向原町350番地 (電話) 0826-46-7022		
自己評価作成日	平成29年11月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600088-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1階が保育園、2階がグループホームという安芸高田市初の合築施設であり、園児たちとの季節行事の交流はもちろんだが、天気の良い日には利用者が園庭まで散歩に行き、園児たちとの触れ合いを楽しんだり、また、日常的な関わり、触れ合いが持てる形での交流に力を入れている。グループホームの設えにおいても、施設感を感じさせないように意識し、利用者自身が「自分の家」として生活していただけるように、生活空間や環境づくりの充実に努めている。</p> <p>また、地域住民との交流が図れるように、日頃から地元のスーパーへの買い物や地域の催事等の行事に積極的に参加している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>社会福祉法人三篠会が開設する同事業所は、管理者一人が2ユニットを運営している。事業所のコンセプトは、2つのユニットが各々特徴ある独自の暮らし方をする事である。ユニット名は”しょうぶ”（向原の花）で全体の設えは洋風で、他のユニット名は”かたくり”（かたくりの里）で設えは和風にしてある。どちらも管理者と職員が話し合いアイデアを出し合いながら、家具や飾り付けを行っているが、配置や家具選び等華美にならず上品で落ち着いた趣がある。ハード面だけでなく、ソフト面でも管理者は経験豊かで懐が深く誰に対しても心優しい。利用者本位は当たり前で、職員に対しても是々非々で決断力も備え、更に想いやりもある。例えば食事後の投薬で、男性職員が、薬を飲んだ後の利用者に「有難う御座います」と自然に出た会話から、日頃より穏やかに支援している事が汲み取れた。職員も管理者と共に「ほっこり」が身についた支援をしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、本人の出来る事(役割)や、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。	法人理念の他に、事業所は理念に基づき目標を定め「利用者に寄り添った支援・情報の共有、連携を密に」を掲げ、両ユニットは2か月に1度施設内研修を行っている。講師は職員が交代で行う為、各々がしっかり勉強が出来、実践に活かせる取り組みがされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事の情報収集に努め、地域行事には職員と一緒に参加していただいている。また、隣接する生涯学習センターみらいの図書館利用や近隣の商店での買物、外食、美容院の利用等、地域の方と関わりが持てるよう配慮している。地域の傾聴ボランティアさんに時々来ていただいている。地元のとんどにも参加した。	一番活用しているのは、隣にある生涯学習センター”みらい”内の図書館で、平素から本を借り利用している。更には手芸品の展示を行ったり、見学に行く等つながっている。向原町の小、中、高が”みらい”で音楽やサークルの発表会時には、見学に行ったり、スーパーに出掛け地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事への参加は基より、年4回広報紙を発行している。また、日常生活や行事活動での表情等を写真におさめ、写真展を地域交流館にて開催し、当グループホームの存在に対する理解が得られるように努めている。また、運営推進会議において利用者様、地域福祉関係機関にも積極的に参加していただき、発言等していただくことで理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回、定期的を実施。行事や利用者の状況等の報告を行い、意見、情報交換の場を持ち、サービスの質の向上に努めている。行政担当者や民生委員、地域の傾聴ボランティアの方にも参加していただいている。	会議は3か月に1度の割合で開催している。出席者は、行政担当者を始め本人、家族や関係者が毎回出席し意見交換を行いながらサービスの向上を目指し、話し合いを行っている。会議は年2回は2ユニット合同で行い、その他の2回はユニット別に行い新しい家族が参加しやすいよう工夫している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取り組み等の情報交換を行っており、連携を密にしながに質の向上に努めている。	市町の福祉課担当者は、運営推進会議に出席している。事業所は会議の報告書の提出は勿論の事、市町を通じて高校から依頼を受け、管理者は「グループホームとは」を題材に、講師として講演会に出向き、事業所の取り組みを市町と連携しながら、積極的に伝える取り組みがある。	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1階が保育園ということもあり、安全面を考慮し、玄関の自動扉はセンサータイプとなっている。利用者の要望に応じて職員と一緒に屋外に出ている。身体拘束はしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>安全を確保しながら、昼夜を問わず見守り重視で日頃より支援に努めている。身体拘束は勿論の事、言葉の拘束も職員は平素から気を付け殆どない。研修内容は身体拘束を正しく理解し、気付きを確認しながら次のケアに繋げる取り組みがされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待についてスタッフ会議や普段から職員同士で話し合えるようにし、お互いストレスを少なくするよう心がけている。また、法人内外の研修に参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については関連資料を閲覧できるように心がけている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、契約内容等説明。十分に納得の上で契約を結んでいる。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的に開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録等を郵送している。家族参加を考慮して土曜日に開催することも検討している。</p>	<p>家族からの、運営に対する意見や要望は余りない。来所時等に意見を求める機会には設けているが、要望は余り出てこない。事業所は運営推進会議の議事録や、担当者からの手紙等で、身近な出来事をタイムリーに知らせる努力は成されており、事業所は家族からの意見の反映に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催。また両ユニット合同によるグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。	各ユニットや合同の会議で、職員から運営に対する意見を聞いている。事例として利用者のプライバシー保護に役立つシュレッターや、利用者の動きをスムーズに出来るコードレス掃除機の購入等がある。また法人に提案したが、上手く反映出来ない案件は、更に話し合い運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用管理者による年1回、個別面談を定期的に行い、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。また有給休暇を取得しやすいよう、職員間のコミュニケーションの充実を図り、併せてストレス対策をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修(新任職員研修、処遇職員研修等)の参加や認知症介護者実践研修等の外部研修の参加の機会を設けている。また2ヶ月に1回、担当職員が自ら企画、進行しての施設内研修を実施し、職員の意欲向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所、または地域の行事や研修会等に積極的に参加し、交流・意見交換を通して、業務改善、サービスの質の向上に努めている。また、法人内のグループホームとの交流会を実施しており、利用者の交流は基より、職員同士の情報交換の場となっている。地域多職種交流研修等への参加もしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネを通して本人に関する情報を収集したり、利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の思いを十分に傾聴し、利用者にとって安心できる存在の職員としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族の思いを知る機会を設けたり、面会時に家族に対しての接遇に十分配慮したりと信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活や生活歴を通じて本人の得意分野等を見出し、共に楽しく行えるよう、また、日々の暮らしに活かせるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会にも来てもらいやすい雰囲気作りを大切にし、利用者、ご家族、職員で話しやすい関係性を築き、共に利用者を支えあう関係作りに努めている。居室担当を決めて信頼関係を構築するように心がけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても接遇に気を配り明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また、地域の行事や外出等を通じて馴染みの人や場所に関わるれるよう努めている。</p>	<p>日常では、保育園の保護者や近隣住民が犬の散歩時に挨拶を交わしたり、受診時に馴染みの医師や看護師と会い、常に信頼関係が継続している。また利用者の希望により、職員とお寺参りに出掛けたり、家族と馴染みの理美容院に行く等し、利用者一人ひとり馴染みの関係が途切れないよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事、外出等を通してお互い助け合いながら生活していただいている。トランプやかかるた等のレクリエーションにも工夫し、利用者同士の関わり合う機会が多く持てるようにしている。また、食堂においてコミュニケーションが取りやすい雰囲気作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先等からの相談や調整を行っている。また、他施設入所後も情報共有に努め、関係を大切にしていこうに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から関わりや会話・表情からの気づきを大切にし、本人・利用者同士との何気ない会話から思いや暮らしの希望、意向の把握に努め、家族と情報共有し、利用者本位の生活が送れるように配慮している。	利用者一人ひとりの生活歴や、日頃の暮らし方を把握し、気付き等を連絡ノートを通して職員は情報を共有し支援に努めている。例えば、居室に掛けてあるお気に入りの、”のれん”が長く動作や表情から判断し、短くしすると喜ばれた。また利用者や家族の思いが違う場合は、本人本位のケアに寄り添い、家族と共に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会の人たちからこれまでの生活等のお話を聞き、馴染みの暮らし方、生活環境に近づくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体操終了後、職員1人ひとりご利用者と握手をし、様子観察を行っている。その日の状態に応じて、本人に合った過ごし方ができるよう、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の様子や気づきを記録に残し、月1回開催のユニット会議にて処遇を行い、朝の申し送り等にて意見交換、情報共有をしている。また、カンファレンスも実施し、利用者、家族の意見を聞き、介護計画を作成している。</p>	<p>本人の様子を観察し、家族の意見を聞きながら、介護計画を立てている。計画に添って毎日モニタリングシートで確認を行い、月1回の会議に於いて、見直しが必要な場合は短期目標を変更する等して、現状に即した支援を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行っている。排便、入浴、シーツ交換等の表にも記録をとり、職員間で情報を共有しながら実践の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、本人や家族に満足していただけるよう検討をし、柔軟に対応している。生活リハビリのみにとらわれず、利用者の希望に応じて、協力医療機関と連携し、リハビリ通院も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に進んで参加したり、地域の高校生や傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法や絵手紙教室(月1回)の開催も含めて、利用者が生き生きと豊かで楽しい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。また、その他のかかりつけ医を受診されている方は基本、家族対応でお願いをしているが、必要に応じて介護職員が付き添いを行い、適切な医療が受けられるように支援している。医療機関と連携を密にし、希望に応じてリハビリ通院も実施している。</p>	<p>かかりつけ医は、事業所のすぐ近くに位置し認知症への理解がある。利用者の希望もあり、入所前より馴染みのあるかかりつけ医に通院する人もいる。かかりつけ医は24時間体制で、必要時は他科への紹介もある。利用者の殆どは、訪問歯科の口腔ケアも利用し、また事業所は平素から簡単な質問は、かかりつけ薬局を利用しながら適切な支援につなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし速やかに受診ができるように対応する。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整える。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に終末期ケアを実施していないことを十分に説明し、理解を得ている。重度化する前に早目に家族と連携を図り、情報提供をするとともに、安心して生活できる場の提供や相談を随時、行っている。</p>	<p>終末期ケアの受け入れを行わない方針を、入居時に家族に説明を行い同意を得ている。重度化した場合は、改めて家族と話し合い、他の医療施設等を紹介する。職員の研修は事業所の方針に従い、例えば誤嚥等予防に重きを置き、適切にチームで支援が出来るよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。救命救急研修や感染予防研修の実施。また、緊急時における救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、また毎月実施している保育園の避難訓練時に参加している。</p>	<p>消防訓練は年2回行われている。更には1階に有る保育園と合同で、月に1回利用者と共に訓練に参加している。地域は企業や工場等の為独自の対策を取っているが、この場所は地域の避難場所としての位置づけがある。備蓄は、保育園と共同で確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。また趣味や特技が活かせる生活の場を提供している。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴を活かし誇りを傷つけないよう配慮している。例えば平素の会話で、名前を出さず部屋の名前を代用し、トイレのパット等も名前を伏せ他の名称を使用している。研修は1～2年に1度行われ、接遇等「親しみと慣れ合いの違い」を常に意識し、言葉遣いを含め、適切な支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮する。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にしている。表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿ってお化粧をしたりと身だしなみやおしゃれができるようにし支援している。外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。また、地域の美容院を利用希望へも個別対応をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をして、後片付けも一緒に行っている。お誕生日には好みの物を聞き、提供している。	平素は栄養士や調理師が”食育”地産地消を心掛け、保育園と共に調理している。ユニットが交代で月に1度おやつ作りを楽しんだり、うどんやスイーツを食べに出掛けてもいる。また、事業所内のテラスで、ケータリングのお弁当を楽しみ、家族と共にビアガーデンに出掛ける事も有り、職員は食事を楽しむ為の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの日々の体調をみながら、本人の希望する量にあわせて、提供している。水分補給についても、個々の要望に応じて好みの飲み物を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後一人ひとり口腔ケアを促し実施していただき、声かけや一部介助等も個々に応じて行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し、必要に応じて声かけや誘導等を行い、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。</p>	<p>利用者個々の申し送りノートや、排尿チェック表を確認し、話し合いで検討しながら共有し、声掛け等も含め行動パターンを把握し、その人に合った潜在能力を引き出せるよう取り組んでいる。夜間にPトイレを使用する利用者が数人いるが、しっかり見守りを行いながら支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日ラジオ体操、リハビリ体操の運動を行い、水分補給にも気をつけている。また、本人へ確認をしたり、状態を見ながら個々に応じてお腹のマッサージを実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴を希望される利用者について、タイミングを合わせられるよう声かけを行い、また、できるだけ利用者の希望にそえるように支援している。</p>	<p>入浴回数は希望により決めているが、概ね週2～3回である。入浴に対して気を付けている事は、皮膚が弱い利用者が多い為、湯船には入浴剤は使用しない。代わりに保湿剤を入れたり、ボディークリームを泡立て手に付けて洗う等、気配りしながら入浴の支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムを尊重しながら、日々の個々の状態を見ながら、ゆったりと過ごしていただけるように支援している。昼食後に居室にて休んでいただけるように、声掛けや誘導も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方通り服薬していただき、確認している。また状態によっては職員で話し合い、必要に応じてご家族への相談、報告をし、医師、薬剤師とも連携を図っている。下剤に関しては本人の排便チェックをし、医師、薬剤師の指導の下、服用、時間、量を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々、本人の思いを考慮し、できる限り、好きな事ややってみたい事、やりがい等を見出していただけるように支援している。具体的には、食事の配膳準備や始末、フローアークロア掃除、カラオケや買い物等がある。その日の体調の変化に応じて、臨機応変に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や近くの図書館やお寺に職員と一緒にいる。また、趣味や食事等のため、ご家族や職員と一緒に外出もされている。また、幼馴染同志で故郷へ外出する機会を設けた。	利用者の希望に添って、出掛けたい場所や目的を把握し、家族にも協力を仰ぎながら支援に努めている。偶然にも利用者同士が同級生で再会し、故郷に職員と共にドライブに出掛け、その後親しみがより深まった事例もあった。事業所は機会があれば、外に出掛けられる体制を確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の希望がある時は、必要に応じて施設で立替金を準備し、一緒に買い物外出できる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	本人や家族の希望があれば支援を行っている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	洋を意識した設え。共用空間は利用者と共に清掃を行い、清潔を保つようになっている。家庭的な雰囲気を大切に、利用者にとって居心地のよい場所になるよう心がけている。	洋風の”しょうぶ”和風の”かたくり”の両ユニットは、テーブルの配置やその他の家具等レイアウトが心地良く、各々の室内空間に合った工夫が感じ取れる。また広めの廊下の途中には、各々洋、和に応じた談話出来るコーナーを設け、仲の良い利用者が楽しめる快適な空間がある。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。また、ソファを設置し、利用者同士で会話も楽しめ、自由に過ごせる場を確保している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。	居室は、大きめの洗面台、備え付けのチェストやベットが、各々好きな配置で使用されている。窓は大きめで壁の色も明るいベージュ色に統一されている。利用者は各々思い出の写真や手作品を飾り、中にはお気に入りの”のれん”を取り付けている。ドアの横には名前と花名が表札代わり掛けてある。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム向原

作成日 平成30年1月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	24, 27	利用者の生活歴や既往歴の把握を職員間で共有出来ていない。	職員誰もが利用者本人を理解できる。	ちょうじゅシステム (i p a d) の活用やミーティング等にて共有を図る。	6 カ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。